

日本中のルノワールが、
ここに集結——

わたしたちのルノワール

Renoir and Japan

ピエール=オーギュスト・ルノワール
《胸に花を飾る少女》
1900年頃 熊本県立美術館

主　　催：東京富士美術館、東京新聞
後　　援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、八王子市、八王子市教育委員会
特別協力：公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館
協　　力：株式会社トーダン、株式会社リョーユーパン
企画協力：TNCプロジェクト

休 館 日：月曜休館　※3/22（月・休）は開館、3/23（火）は休館
開館時間：10:00~17:00（16:30受付終了）
〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1
TEL 042-691-4511

1.26（火）2027
〜
3.28（日）

FAM
TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館


1

RENOIR AND JAPAN


2


3

We ♥ Renoir

19世紀フランス印象派を代表する画家ピエール＝オーギュスト・ルノワール（1841-1919）。明るく幸福な雰囲気に満ちたその作品は、日本においても長く愛されてきました。なぜルノワールはこれほどまでに日本で親しまれてきたのでしょうか。その理由の一つは、全国各地の美術館でその作品を“実際に見ることができる”という点にあるのかもしれません。

本展はルノワールが日本で受容され、身近な画家として、いわば「わたしたちのルノワール」になるまでの道のりを辿ります。同時にルノワールから影響を受けた日本の画家たち、ルノワールと同時代の印象派の画家たちの作品も展示します。ルノワールと日本が歩んできた歴史に思いを馳せていただき、わたしたちが長く親しみ愛してきたルノワールの世界をぜひご堪能ください。

The exhibition Renoir and Japan traces the history of Renoir's reception in Japan and explores how he came to be regarded as a familiar and beloved presence—an artist whom people in Japan could think of as their own. It also presents works by Japanese artists who were influenced by Renoir, alongside works by other Impressionist painters of his time. We invite you to reflect on the history shared by Renoir and Japan and to enjoy the world of Renoir, whose art has long been cherished in this country.

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
1.《泉による女》1914年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館
2.《麦わら帽子の少女》1885年 呉市立美術館
3.《水浴の女》1887年 ポーラ美術館
4.《ジャン・ルノワールと一緒のガブリエルと少女》1895-96年
山田養蜂場ギャラリー


4


5


6


7

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
5.《アンドレ・ベラールの肖像》1879年
八木ファインアート・コレクション
6.《アネモネ》1915年頃 村内美術館
7.《パリスの審判》1913-14年頃 ひろしま美術館

EVENT

記念講演会①
演題：日本におけるルノワール受容
—裸婦の画家から幸福の画家へ—
講師：三浦 篤
（大原美術館 館長、本展監修者）
日時：2／6（土）14:00～（約1時間半）

記念講演会②
演題：ルノワール、生涯と芸術
講師：賀川恭子
（アーティゾン美術館 学芸員）
日時：2／20（土）14:00～（約1時間）

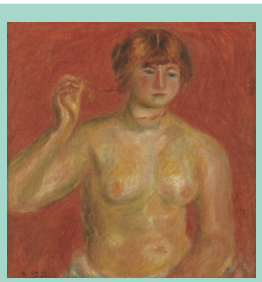
名曲コンサート
公演：ルノワールの時代の音楽
出演：神谷未穂（ヴァイオリン）、
中川賢一（ピアノ）
日時：2／23（火・祝）14:00～（約1時間）

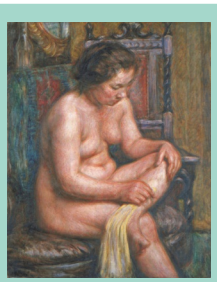
記念シンポジウム
演題：ルノワールを18世紀美術から見る
講師：大野芳材（美術史家）ほか
日時：3／6（土）13:00～15:30
※途中、入退場可

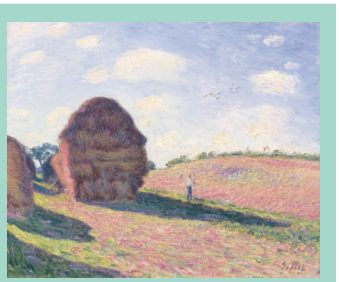
富士美茶会
講師：阿部宗栄（裏千家茶道 教授）
日時：2／27（土）、3／20（土）、27（土）
10:30 / 11:30 / 13:30 / 14:30～
（各約30分間）
※3／27は体験型の茶道教室

・イベントにご参加の方は、イベント開催当日有効の入場券をお求めください
・各イベントの詳細はホームページwww.fujibi.or.jp にて

ルノワールに学んだ日本の洋画家たちや印象派の画家たちの作品も


梅原龍三郎《黄金の首飾り》
1913年 東京国立近代美術館


中村彝《裸体》1916年
茨城県近代美術館


アルフレッド・シスレー
《積み藁》1895年 諸橋近代美術館

同時開催 〈新収蔵〉
月岡裕二作品展
—絵画と工芸のあわい—
新館常設展示室7

入場料
大　人　1,500（1,200）円　大高生 900（800）円
中小生　500（400）円　未就学児無料
※新館常設展示室もご覧になれます
※（　）内は各種割引料金［20名以上の団体、シルバー（65歳以上）、当館公式SNSフォロワー・登録者ほか］　※土曜日は中小生無料
※障がい児者、付添者1名は通常料金の半額［証明書をご提示ください］

交通案内はこちら

FAM
TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館

HP: www.fujibi.or.jp　Facebook: www.facebook.com/fujibi　X: @tokyofujibi　Instagram: tokyofujibi　Line: @lin.ee/kMOQ6yn

割引券
本チラシを
ご提示の上、
1枚につき
10名様まで有効